

阿波の名医 三宅速

(みやけ はやり)



図1 三宅速教授



図3 グランドピアノと速の末娘の高岡富子

三宅速博士は徳島県美馬郡穴吹町で生まれ、たぐい稀な秀才として知られた。東大医科を特待生で通し、明治二四年首席で卒業。外科を専攻し、二六年には徳島市中央に本県最初の近代的外科病院を開設した。その後二回のドイツ留学を経て京大福岡医科大学教授から九州大学外科学教授を務め、内



図2 船上のアインシュタインと三宅速

臓外科医として名声が高かった。

昭和二〇年六月岡山市で、岡山大学教授である令息三宅博宅防空壕内で米軍空襲により爆死。享年八〇歳であった。

一九二二年一月、マルセイユの港はごった返していた。ノーベル賞を受賞したアインシュタイン博士（ア博士）が、日本客船北野丸に乗り込んできたからである。同船には、米、英、仏、独、伊の各国を視察し帰路の速博士も乗船していた。ある日、ア博士は排便時の出血と発熱を訴え、船医の診断に満足せず、エルザ夫人が独断で腹部外科を修めた速に診察を依頼してきた（図二）。ア博士は大腸癌を心配していたが、速は急性虫垂炎と診断して治療した。それがきっかけとなり、両博士は長い航海中、互いに語り合ったのである（図二）。

船は無事に神戸に到着。ア博士が来日したのは、日本縦断のノーベル賞受賞記念講演のためだった。ア博士は下船の際に、「九州に講演に行つたときには、ぜひともお宅を訪問したい」と、感謝の意を表した。クリスマスの日、福岡市の自



図4 徳島県美馬市穴吹町三島字舞中島にある光泉寺



図6 三宅速博士碑の爱因斯坦碑文



図7 アインシュタイン博士直筆の拡大図



図8 追悼文の原文と訳文



図5

宅にア博士が訪問。ア博士は「いい子だ、いい子だ」と微笑みながら、令息の三宅博のいがぐり頭を撫でた。エルザ夫人は、膝の上に末娘の富子を抱いて可愛がった

速は、現在、穴吹町にある光泉寺境内で、永遠の眠りに付いている(図四、五)。ここには、ア博士が速夫妻の死を悼み送った友情の言葉が刻まれた墓碑がある(図六、七)。ドイツ語の銘文およびその和訳を図八に示した。

のである。いとまを告げるとき、速がウィーンから船便で送ったグランドピアノをア博士が見つけ、優雅に演奏した。これが本ピアノの弾き初めであった(図三)。

参考文献

一 今市正義、日本医事新報

1650...47-51

1651...60-65、1955

二 福島義一、徳島県医師会報

6296-310

1996-1997

三 比企寿美子(ひきすみこ) 引導をわたせる医者となれ 春秋社、

1999 (著者は三宅博の長女)

(徳島大学医学部同窓会
青藍会会報第五六号…

三七-三八ページ、二〇〇〇)

Dr. MIYAKE Hayari

Dr. MIYAKE Hayari was born in Tokushima (1867-1945), and graduated summa cum laude from Tokyo Univ. School of Med. He opened Surgery Hospital in Tokushima, followed by studying abroad in Germany twice and becoming the Prof. of Surgery in Kyushu University.

A historical episode has been known for Dr. Miyake and Albert Einstein who received the 1921 Nobel Prize in Physics. When Miyake was coming back from Europe to Japan by Kitano-maru ship, Albert was also in the same ship and developed acute abdominal pain. Albert was diagnosed as appendicitis and saved his life by Dr. Miyake who was a supreme surgeon. After Dr. Einstein presented several commemorative lectures in Japan, he dropped in at Miyake's home in Kyushu. They had a happy time together with Hayari's son, Hiroshi. Einstein played the piano well, that was sent abroad from Europe to Japan.

He died in Okayama during 2nd World War in 1945, where his son Miyake Hiroshi was the Prof. in Okayama University. When Dr. Miyake's grave was built in Kosenji Temple in Tokushima, Dr. Einstein gave them a memorial inscription, as a special token of gratitude.